

Dominion® PX(DPX)ソフトウェアバージョン 1.3.1 リリースノート (アップグレード後に GUI に表示されるファームウェアバージョンは 01.03.01)

バージョン：DPX 1.3.1 リリースノート改訂版 1.2

公開日：2009年3月18日

発効： 即日

適用対象：

本ファームウェアリリースは、以下のモデルを除く全 DPX モデルを対象とします。

DPXR4X1A-16NP、DPXS20A-16AU-M、DPX8A-16AU-M

ユニットが正常に機能しなくなる可能性がありますので、上記 3 モデルを DPX 1.3.1 にアップグレードしないでください。

CC-SG 4.0 をご使用のお客様は、後述の「DPX リリース 1.3.1 での既知の問題」に記載されている制限事項にご注意ください。

重要—アップグレードマトリックス：必ず以下のアップグレードパスに従ってください。さもなければ、ユニットを工場へ返送する必要性が生じる場合もあります。

- バージョン 1.0.n のファームウェアを実行している単相モデル：
 - 1.01.nn を 1.02.nn にアップグレードする前に、必ず 1.00.nn を 1.01.nn にアップグレードしてください(「n」は番号を表します)
- バージョン 1.01.05/1.01.06 のファームウェアを実行している単相モデル：
 - 1.3.1-7530 にアップグレードする前に、必ず 1.1.5-6724/1.1.6-6889 を 1.02.0-7173 にアップグレードしてください
- その他の全モデル(元のバージョン→アップグレード後のバージョン)
 - 1.2.1 ->1.3.1-7530
 - 1.2.2 ->1.3.1-7530

DPXR4X1A-16NP、DPXS20A-16AU-M、DPX8A-16AU-M の各ユニットをご使用のお客様向けのアップグレードパスは、今後リリースする予定です。

リリース 1.3.1 は、以前のどの DPX リリースにもダウングレードしないでください。

リリースステータス： 一般提供

DPX の概要：

Dominion PX(DPX)とは、ラリタンのインテリジェント PDU(Power Distribution Unit)の製品シリーズをいいます。

リリース 1.3.1 の強化点および修正点：

- A) 新しいハードウェアモデルのサポート。
- B) SSL に関する信頼性の修正。 [18714]
- C) GUI を使用した HTTP/HTTPS に関する信頼性の修正。 [18731,18654]
- D) SNMPv3 をご使用の場合は、システムの説明、システムオブジェクト識別子、位置、管理者情報などの MIB-II 情報にアクセスできません。 [18659]
- E) GUI では、ワット数は「xxx.yy」という形式で表示されます。しかし、1 ワット未満の値は DPX の分解能を下回るため、GUI ではワット値と VA 値の小数点以下の値は表示されません。 Dominion PX での SNMP とローカル表示の不一致の解消。以前のリリースでは電流の分解能は 0.01A であったため、識別可能な最小のワット値は 1 ワット($0.01A \times 100V(\text{日本})=1 \text{ワット}$)となり、小数点以下の値の表示は意味を成さないこととなります。 DPX1.3.1 では、この不整合が解消されるようになりました。 [17715]

DPX の特長に関するより詳細な内容については、DPX ユーザガイドを参照してください。

Dominion PX のマニュアル :

以下のユーザマニュアルが、DPX に使用できます。

本リリースについては、ラリタンの Web サイトにある最新の英語版の DPX1.3 ユーザガイド(PDF 形式)を使用してください。これは、GUI のハイパーリンクから移動して入手できます。DPX1.3.1 用の新しいユーザガイドはなく、DPX1.2.7 のフォルダ内のユーザガイドが DPX1.3.1 用として提供されていますので、ご注意ください。

DPX1.3.1 非対応製品 :

KSX G1 は DPX をサポートしません。

DPXR4X1A-16NP、DPXS20A-16AU-M、DPX8A-16AU-M の各 DPX モデルは、本リリースでサポートしません。

アップグレードマトリックス(アップグレードのパス)

アップグレードマトリックス：ユニットのファームウェアをアップグレードする際は、事前に上述の「重要—アップグレードマトリックス」を参照してください。

DPX リリース 1.3.1 の互換性情報 :

1. KSX(G1)ユニットは DPX をサポートしません
2. アップグレードマトリックス：ユニットのファームウェアをアップグレードする際は、事前に上述の「重要—アップグレードマトリックス」を参照してください。
3. Google Chrome ブラウザは、本リリースでサポートしていません。[18564]

重要な留意事項および情報 :

- A) ユニットにログインしてアップグレードプロセスを開始する前に、ブラウザの Javascript を有効にします。
- B) ファームウェアのアップグレードが完了したら、左側パネルの DPX Home ページのファームウェアバージョンを確認します。アップグレード後は「Firmware 01.03.01」と表示されます。これは、DPX ファームウェアリリース 1.3.1 を示す表記です。
- C) DPX デバイスを Command Center Secure Gateway(CC-SG)から再起動またはアップグレードする場合は、必ず次の手順を実行してください。
 - a. デバイスの管理を停止します。

- b. DPX の再起動/アップグレードを行います。
- c. DPX のブートが完了したら、デバイスの管理を再開します。[FCR15440、12777、12807]

北米および日本向けの一部の DPX ユニットでは、NEC コードで許可されている減定格(最大値)に合わせてしきい値を調整する必要があります。ユーザインタフェースは、クリティカルなしきい値について、システム指定の制限を超える値をユーザが入力できないようになっています。内部監査の一環として、一部のモデルでは指定電流が低減されています。

1.2.5 アップグレードで設定されている減定格を上回るしきい値をユーザが設定した場合、1.2.7 へのアップグレード後に、システム制限を超えるしきい値が DPX に設定されます。

たとえば DPCR8-15 の場合、しきい値の最大値は 15 になります。DPX1.2.7 へのファームウェアアップグレードの一環として、この値を 12 に変更していただく必要があります。アップグレード前に、お客様がしきい値として 12A を超える値を指定した場合は、しきい値がシステム制限を超えることになり、警告、SNMP トラップ、および Syslog イベントが発生する可能性があります(それぞれが有効化されている場合)。[17910]

DPX リリース 1.3.1 での既知の問題：

1. DPX1.3.1 ファームウェアを実行する DPX を CC-SG4.0 に追加する場合に、このリリースはサポートされていないとの警告が表示されますが、DPX1.2 も CC-SG4.0 で正しく機能しますので、このメッセージは無視してキャンセルしてください。今後の CC-SG リリースでは、このメッセージは削除される予定です。
2. DPX デバイスを CC-SG から再起動またはアップグレードする場合は、必ず次の手順を実行してください。
 - a. デバイスの管理を停止します。
 - b. DPX の再起動/アップグレードを行います。
 - c. DPX のブートが完了したら、デバイスの管理を再開します。[FCR15440、12777、12807]
3. SMTP サーバが見つからない場合、DPX がダウンしていると表示されます。DPX と SMTP が異なるサブネットにある場合にこの現象が起きます。この問題については、今後のリリースで修正する予定です。[16028]
4. アウトレットのオン/オフイベントの生成時に、そのイベントを対象とした警告が表示されると、オン/オフイベントがイベントログに記録されません。[16029]
5. アウトレット名を変更していても、警告イベントではすべてのアウトレット名がデフォルト(Outlet 1、Outlet 4 など)のままとなります。[16090]

6. 電流の負荷が 0.1A 付近か、または 0.1A よりも小さい場合、力率は 0.208 などのように 0 以外の数値が表示されますが、RMS 電流は「0」と表示されます。この問題については、今後のリリースで改善する予定です。
7. しきい値の設定時に、実際の IPMI センサのデータがしきい値として表示されません。そのため、10.0A など一部の値は、しきい値として設定できない場合があります。たとえば、しきい値を 10.0A に設定すると、9.97A という値が表示される場合があります。これは、IPMI 内部で使用されるエンコード精度が高められたことに起因します。
8. **DPX リリース 1.3.1** には大幅な改修が加えられているため、リリース **1.3.1** からリリース **1.2.7**、**1.2.5**、**1.1**、あるいは **1.0.3** より以前のリリースへのダウングレードは実行できません。
9. IPMI により表示される最短の電源投入遅延時間は、1 秒よりも大きな値になります。GUI では 1 秒以下の値の表示と設定が可能です。
10. 複数のイベントログターゲットが選択されている場合、イベントログ割り当てのチェックを外す(無効にする)ことはできません。この問題に対処するには、Syslog 送信を[Enable(有効化)]し、すべてのチェックボックスのチェックを外して[Apply(適用)]で変更を保存します。これにより、ローカルイベントログのチェックボックスの選択/解除が可能になります。この動作は、SMTP または NFS ロギングとしては監視されず、Syslog でのみ監視されます。
11. シングルユーザログイン制限が Enabled(有効)になっている場合(非デフォルト設定)に限り、すでに管理ユーザがログインしている状態で 2 番目の管理ユーザがログインしようとする、最初の管理ユーザがログアウトされる場合があります。したがって、本リリース(1.3.1)ではシングルユーザ制限は使用せず、代わりに、ユーザを適切なアクセス権限を持つグループに割り当てることを強くお勧めします。この制限は今後のリリースでは排除される予定です。
12. 力率の単位が「null(無効)」のままになっています。IPMI の力率データタイプはパーセンテージではなく、比率が使用されるようになりましたが、「ratio(比率)」ではなく「null(無効)」と表示されます。IPMI では力率には、パーセンテージデータではなく、比率データが表示されなければなりません。この問題については、今後のリリースで改善する予定です。[13667]
13. Web ブラウザの GUI セッションを終了する場合は、必ず Logout(ログアウト)ボタンを使用してユニットからログアウトしてください。ウィンドウの右上の閉じるボタン(X)をクリックしてセッションを終了しないでください。閉じるボタンで終了すると、ユーザセッションがオープンのままになり、休止タイマーの時間が経過するまで[Active(アクティブ)]セッションパネルに表示されたままになります。よって、休止タイマーの値は小さな値(5~10 分)に設定することを、強くお勧めします。[15986]
14. 電流が上限側のノンクリティカルなしきい値を超えると、アウトレットの詳細表示が空白になります。[16448]
15. SNMP およびスイッチアウトレットのオン/オフ/サイクル(または SNMP および電流アウトレットのオン/オフ/サイクル)を警告の送信先として設定した場合、スイ

ッチ(オン/オフ/サイクル)トラップが生成されません(16936、16904)。この問題は、今後のリリースで修正する予定です。

16. SNMP およびスイッチアウトレットのオン/オフ/サイクル(または SNMP および電流アウトレットのオン/オフ/サイクル)を警告の送信先として設定した場合、スイッチ(オン/オフ/サイクル)の SMTP メールが生成されません(16937、16902)。この問題は、今後のリリースで修正する予定です。
17. DPXR8A-16 ユニットでは、PDU 定格電力値が Web ページ上で誤って表示され、本来 3680VA となるべきところが、3700VA と表示されます。この問題は、今後のリリースで修正する予定です。 [18194]
18. DPX1.2.0 ファームウェアは、DPXR8-20L、DPXR20A-30L6、DPXS12-30L、DPXS12A-20L6 の 4 モデルについて対応が不完全であり、後で 1.2.5 にアップグレードする際に以下のような影響が及びます。 [17906]

不具合のシナリオ：

- * 1.2.0 から 1.2.5 または 1.2.7 へのアップグレードを実施。
- * PSOC のアップグレードが失敗。
- * コントローラ FW のアップグレードが成功。
- * リレーボードのアップグレードに失敗したことをユーザに通知。
- * Eric の停止。

復旧手順：

- 電源のオン/オフ切り替えまたはリセットボタンにより、DPX をリセットします。
- * 1.2.5/1.2.7 から 1.2.5/1.2.7 にアップグレードします。
 - * アップグレードに成功したことが通知されます。

19. ビルド PX-1.0.3.0.1.7393 の DPX を使用している場合、DPX で事前に NFS ログファイルを作成していると、NFS サーバの新しいログファイルにエントリが追加されません。新しいログファイルが正常にマウントされている場合でも、エントリは新しい(または古い)ログファイルに追加されません。DPX ユニットの再起動すると、ログファイルエントリが新しいファイルに正しく追加されます。 [18411]
20. SNMPv3 を使用している場合、SNMP サービスの停止/起動を実行すると、新しく追加されたユーザも SNMP を利用することができます([Device Settings(デバイス設定)]→[SNMP settings(SNMP 設定)]ページで SNMPv3 を無効にし、[Apply(適用)]をクリックします。その後、再度 SNMPv3 を有効化して[Apply(適用)]をクリックし、SNMP の無効化および有効化を行います。この後再起動すると、SNMPv3 を使用できるようになります)。これは SNMP がユーザベースであることに起因します。 [18418]
21. [Outlet Group Device(アウトレットグループデバイス)]ページで変更オプション(ボタン)を使用しても、ユーザ名とパスワードを変更できません。
「Device Modified Successfully(デバイスは正常に変更されました)」というメッセージが表示されても、対象の DPX のアウトレットグループデバイスの[Access User(アクセスユーザ)]カラムには、以前と同じエントリが表示されます。

DPX のマニュアルの手順に従えば、アウトレットグループデバイス名とそのアウトレットグループデバイスのユーザ名とパスワードを変更できます。この問題に対処するには、アウトレットグループデバイスのデータ(グループデバイス名、ユーザ名、パスワード)を削除して、新しいデータを入力します。[18686]

注：[Outlet Group Device(アウトレットグループデバイス)]ページから移動し、再度このページに戻っても、[Access User(アクセスユーザ)]カラムは更新されません。

22. [Outlet Setup(アウトレットの設定)]ページで、[Reset to Default(デフォルトにリセット)]をクリックするとページ内の全ての設定がデフォルトに変更されますが、[Apply(適用)]をクリックして変更を保存しようとするとき「Error: The upper non-critical threshold of sensor RMS Current must be less than the upper critical threshold by at least 0.98 Amps(エラー：センサ RMS 電流の上限側のノンクリティカルのしきい値は、上限側のクリティカルのしきい値より少なくとも 0.98A 小さな値でなければなりません)」というエラーメッセージが表示されます。上限側のクリティカルのしきい値とノンクリティカルのしきい値の差を 1A 以上設けて手動で入力すると、設定が保存されるようになります。この問題は、今後のリリースで修正する予定です。[18719]
23. 1.2.7 から 1.3 にアップグレードすると、DPXR20A-16 のアウトレットの定格電流が 10A から 12A に変更されます。この問題は、今後のリリースで修正する予定です。[18722]
24. 「User/Group Management(ユーザ/グループ管理)」権限を持つユーザグループに属する管理ユーザでも、新しいユーザを作成する際には「Change Password(パスワード変更)」権限が必要です。この権限がないと、[Password(パスワード)]フィールドと[Create(作成)]ボタンがグレー表示されます。この問題に対処するには、ユーザを作成する前に、管理ユーザグループに「User Group Management(ユーザグループ管理)」権限と「Change Password(パスワード変更)」権限の両方を設定します。[18755]
25. SNMP GETでDPXのファームウェアのビルド番号を取得する方法は、現在SNMPでは利用できません。[18486]

リリースパッケージの詳細：

DPX シリーズのリリース 1.3.1 パッケージは、以下のコンポーネントで構成されています。バイナリファイルは、ラリタンの Web サイトのファームウェアアップデートに zip 形式のファイルで提供されますので、DPX ユニットへインストールする前に解凍しておく必要があります。

「DominionPXReleaseNotes1_3_1v1_2」：本 PDF ファイル
ファームウェアリリース(バイナリ)：
fw-kira-rpc-pdu-raritan_010301-7530.bin

ファームウェアアップグレードの前提条件：

問題がある場合、または以下の手順を実行できない場合には、アップグレード作業を中止し、ラリタンのテクニカルサポートへお問い合わせください。手順を開始する前に、リリースノート(本文書)のすべてに目を通してください。

一般的なアップグレードの説明(ブラウザベースのユーザインタフェースからのスタンドアロンアップグレード)：

1. 現在の管理者セッションの他に、ログインしているユーザやアクティブセッションがないことを確認します。
2. DPX デバイスをアップグレードするユーザは、DPX ユニットの更新が可能な管理者権限を持つデフォルトの管理者グループに属する必要があります。
3. アップデート処理の完了には 5~10 分かかります。アップデートおよびその後のレポートに要する時間は、ユニットのアウトレット数によって異なります。
4. DPX ユニットのアップグレードには、有線ネットワーク接続だけを使用してください。無線ネットワーク接続を使用すると、パケットロス/ドロップアウトが原因でアップグレードに失敗する可能性があります。
5. VPN を経由してファームウェアのアップグレードを行う場合は、接続の安定性および非アクティブのタイムアウトが設定されていないことを確認します。
6. アップグレードの実行手順に関する詳細な説明は、以下に記載してあります。
7. ソフトウェアのアップグレードはフラッシュメモリに書き込まれますが、完了までに時間がかかります。アップグレード実行中は、ユニットの電源をオフにしたり、Ethernet 接続を切断したりしないようにしてください。
8. ブラウザの **Javascript** を有効にします。
9. ファームウェアのアップグレードファイルを、ローカルまたはネットワークアクセスが可能なディレクトリに保存します。ファイルは解凍してから保存します。
10. アップグレード時に問題が発生した場合には、ラリタンのテクニカルサポートにお問い合わせください。

アップグレード手順の説明：

特に指示がない限り、**Power IQ** をご利用のお客様は、**Power IQ** のマニュアルの手順に従って **DPX** ユニットのアップグレードしてください。

1. ユニットにログインしているユーザがいなくても確認してください。ファームウェアのアップグレード中でも、(ソフトウェア)リセットをしてユニットへ新しいファームウェアをロードした後でも、アップグレード

によってアウトレットへの電源供給が遮断されたり、アウトレットの状態が変わったりすることはありません。つまり、アウトレットがオンであればそのままオンの状態が、同様にオフであればそのままオフの状態が維持されます。

2. Mozilla Firefox、Internet Explorer(またはサポートされているその他のWebブラウザ)にDPXユニットのIPアドレスを入力し、Webベースのインターフェースがロードされるのを待ちます。

3. 管理ユーザ「admin(管理者)」(またはファームウェアのアップグレード権限を持つAdmin Group(管理者グループ)の他のメンバー)としてログインします。

4. 「Maintenance(メンテナンス)」タブから「Unit Reset(本体のリセット)」コマンドをクリックします。これにより、内部使用メモリの解放と内部デバッグログファイルの消去が行われ、アップグレードがスムーズに行えます。Unit Reset(本体のリセット)からファームウェアアップグレードまでの時間は、10分以内です。この指示に従わない場合、一部のユニットでアップグレードに失敗する可能性があります。

5. 「Reset Device(デバイスのリセット)」プロンプトで確認を求められたら、「Reset(リセット)」ボタンをクリックします。さらに「Really reset(本当にリセットするか)」というプロンプトが表示されますので、「Reset(リセット)」ボタンをクリックします。デバイスがリセットされると(1分程度かかります)、ログアウトされLogin(ログイン)ページへ移動しますので、管理者ユーザ名とパスワードを使用して再度Login(ログイン)します。Reset(リセット)によりアウトレットの状態が変わることはありません。それまでのオンまたはオフの状態が維持されます。

6. 「Maintenance(メンテナンス)」タブから「Update Firmware(ファームウェアの更新)」コマンドをクリックします。

7. [Browse(参照)]で、更新が含まれる**.bin** ファイル(**fw-kira-rpc-pdu-raritan_010301-nnnn.bin**)を検索します(注：解凍済みファイルでなければなりません。nnnnは4桁の数字)。

フルパス名は下記の例のように表示されます(システム上のファイルパスとは異なる場合があります)。

“C:\Documents and Settings\user\My Documents\My Downloads\fw-kira-rpc-pdu-raritan_010300-nnnn.bin”(nnnnは4桁の数字)。

「Upload(アップロード)」ボタンをクリックします。

現在のファームウェアとアップグレード後のファームウェアのバージョンが表示されます。「Upgrade(アップグレード)」ボタンを1度だけクリックし、アップグレードを開始します。

8. 以下のように、ファームウェアのアップグレードが進行します。
 - a. いずれのアウトレットも電源供給は遮断されませんが、アップグレード中は他のユーザは DPX を操作することはできません。
 - b. このアップグレードプロセスは、ユニットのアウトレット数によって、4～10分ほどかかります。

アップグレードまたはリブート中は、決して DPX のリブートや電源の切り替えは行わないでください！
 - c. アップグレードが完了すると、管理ユーザはログオフされます。
9. DPX ユニットがリブートおよびリセットされます(約 1～2分)。
10. アップグレードが完了すると、Login(ログイン)ページに戻ります。万が一、12分以上経過してもログインページが表示されない場合に限り、すべての Web ブラウザセッションを閉じ、リセット完了後に再ログインします。(ヒント：Javascript を無効にしている場合は有効にしてください)
11. ファームウェアのアップグレードが完了したら、左側パネルの DPX Home ページのファームウェアバージョンを確認します。アップグレード後は「Firmware 01.03.01」と表示されます。
12. DPX リリース 1.3.1 で加えられた改修のため、リリース 1.3.1 から以前のリリースへのダウングレードは実行できません。
13. 更新中に疑問や問題が生じた場合は、ラリタンのテクニカルサポートへお問い合わせください。

DPX 1.3.1 Release Notes, Revision 1.2

March 18, 2009

This note is intended for Raritan customers only; its use, in whole or part, for any other purpose without the express written permission from Raritan, Inc. is prohibited.

Copyright ©2005-2009 Raritan, Inc. CommandCenter, Dominion, and the Raritan company logo are trademarks or registered trademarks of Raritan, Inc. All rights reserved. Solaris and Java are trademarks of Sun Microsystems, Inc. Windows and Windows Vista are trademarks or registered trademarks of Microsoft Corporation. Mac and Safari are trademarks or registered trademarks of Apple, Inc. All other marks are the property of their respective owners.